

家じゅうピカピカ 拭き掃除

あっという間に師走の大掃除の時期が来ました。

掃除機をかけただけでは取れない皮脂などのべたべた汚れ。

洗剤で拭き掃除といきたいところですが、フローリングや床とにらめっこしたまま、重い腰が上がらない人も多いのでは？

そこで、今回は洗剤を使わなくても水拭き、お湯拭きですっきりさせるコツをおさらいをしましょう。

拭き掃除の 基本のおさらい

■使うのは使い古しのタオル、肌着、Tシャツなどの衣類

■拭き方は上から下へ、奥から手前に。

天井→壁→家具→床の順に拭くと効率よくふけます。

※水や洗剤を使う場合は、シミや変色ができないか、試し拭きをしてから。



①ブラインド

拭きにくいブラインドは、雑巾よりも超極細繊維でできた手袋タイプの布巾が便利です。手袋タイプだから隙間も簡単に拭けます。

②家具

ソファなどの布製品はお湯拭きで、革製品、木製の家具は乾拭きでOK!
AO機器周りは水気を避けましょう。

③窓ガラス

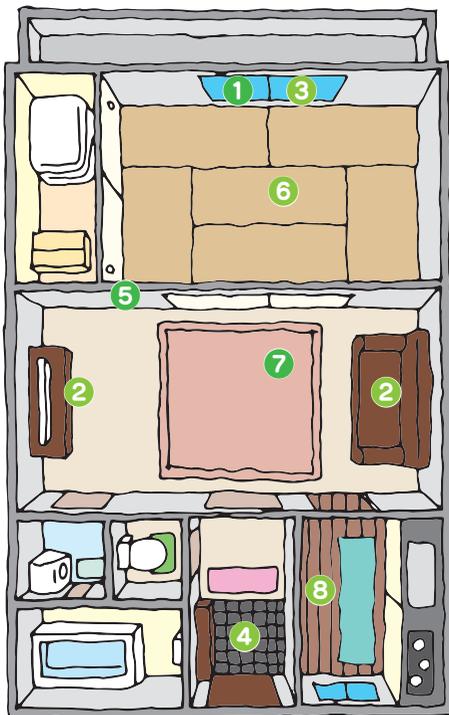
スポンジをお湯につけて汚れを洗い流します。そのあとスクイジーで水気をとります。

④玄関のたたき

使い捨てられる木綿の古布で水拭きします。汚れがひどいときは2度拭きします。

⑤天井・壁（高い所）

ドライタイプのそうじシートをセットしたフロアワイパーを軽く滑らせます。特に冬場は暖房で空気が上に舞い上がるため、汚れやすくなります。



⑥畳

畳掃除の基本は、目に沿って行うこと。最初に掃除機を目に沿ってかけ、その後、お湯を強く絞った雑巾で、畳の目に沿って拭きあげます。最後に乾いたきれいな雑巾で乾拭きをします。※雑巾は必ず強く絞って行うことを徹底してください。

⑦カーペット

皮脂などでべとつくカーペットは、お湯拭きがおすすです。汚れがゆるんで落ちやすくなります。タオルをお湯で濡らしたり、水で濡らしたタオルをレンジで30秒～1分程度温める方法もあります。毛足が長い場合は毛足を逆立てるように、短い場合は「の」の字を書くように拭いていきます。

⑧フローリング

木製のフローリングは、基本はから拭き。どうしても気になる場合は、強く絞った半乾きのそうじん（水を絞った雑巾と乾いた雑巾を重ねてしぼり乾いた方）で水拭き。なるべく短時間で終えるのがコツです。

『350号コンロまわりのベタ付きを防ぐ』『338号今どき、お掃除グッズ』『326号手作り万能洗剤で大掃除』『302号見落としがちな掃除の盲点』『280号ほこりの撃退法』『266号頑固な汚れ、これでさよなら!バスルーム掃除術』もあわせてご覧ください。

まだまだあります **バックナンバー**。詳しくは「住まいの宝箱」HPの〈お困りキーワードでサイト内検索！ 〉で!